



2015-2017

Hiroshima
Innovative School

supported by OECD

広島創生イノベーションスクール

概要

平成28年5月

広島県教育委員会

ご説明 アウトライン

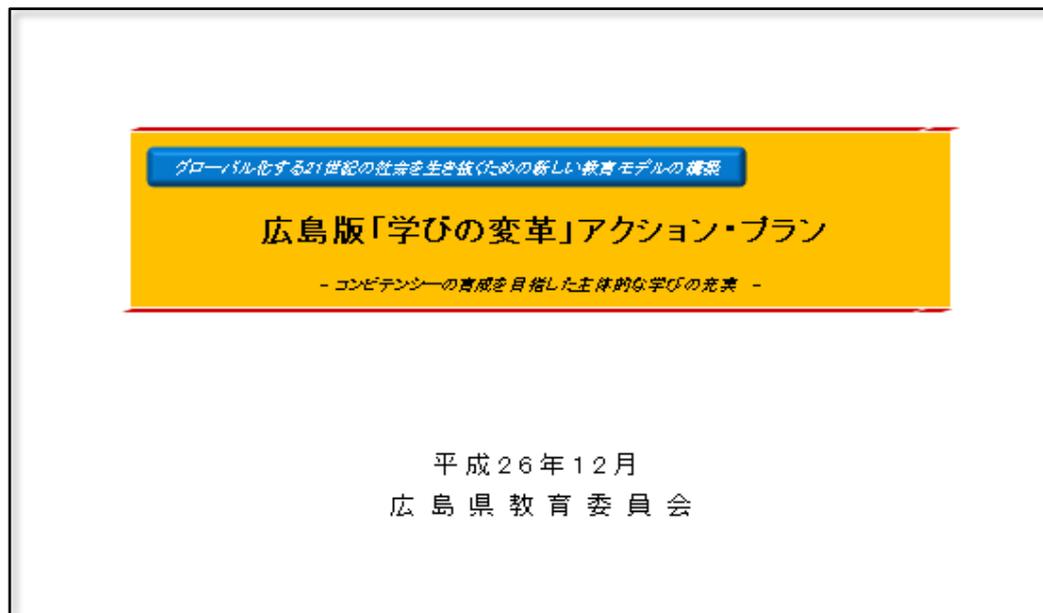
0 広島版「学びの変革」アクション・プランについて

1 広島創生イノベーションスクール 概要

2 グローバルスクール（P4Y） 概要

3 ご支援・連携について

平成26年12月 「広島版『学びの変革』アクション・プラン」策定



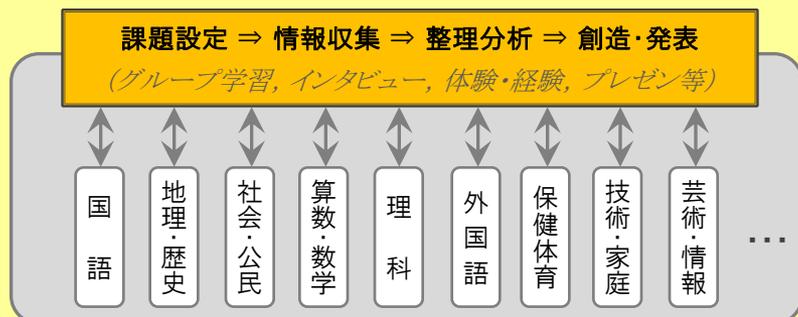
- ◆ グローバル化する21世紀の社会を、子供たちがたくましく生きていくための、新しい教育モデルの構築を目指すもの。
- ◆ これからの新しい教育の方向性として、「知識の量」のみを問うような「受動的な学び」から脱却し、「何を知っているか」以上に「何ができるか」を重視する、「**コンピテンシーの育成を目指した主体的な学び**」を掲げる。

〈これからの社会で活躍するために必要な資質・能力の育成を目指した教育活動の方向性〉

- ◆ 児童生徒の主体的な学びを促す「課題発見・解決学習」や「異文化間協働活動」を通して、次のような人材の育成を目指す
 - 自ら深く考え、自分の言葉で自分自身や広島・日本のことを語ることで自立した人材
 - 多様性を受け入れ、自信を持って異なる文化の人とコミュニケーションを取ることのできる人材
 - 様々な人々と協働して、答えのない諸課題に対し失敗を恐れず果敢に挑戦し続け、新たな価値を創造することのできる人材

課題発見・解決学習

各教科で習得した知識やスキルを活用し、異なる価値観を持つ人々と協働して、答えのない問題から最善解を創造



※ 複雑化・高度化する実社会との繋がりを意識して児童生徒が自ら課題を設定

異文化間協働活動

自ら体験し、違いに気づき、多様性を受容する中で、グローバル・マインドを涵養し、実践的なコミュニケーション能力も向上



※ 体験を通して自分自身の行動や考えを深く振り返ることが重要

グローバルリーダー育成校（仮称）

School mission
《学校の使命》

持続可能な社会を構築し、国際社会の平和と発展に貢献できる人材の育成

～人類の共存共栄に向けて、答えのない諸課題に対し、失敗を恐れず果敢に挑戦し続けることのできるグローバルリーダーを育てる～

広島県独自の教育プログラム - 中高6年間一貫教育 -

【コア・カリキュラム】

国際機関等と連携した「広島と世界をつなぐ
プロジェクト学習」

～ UNITAR/UNESCO/OECDなど～

広島の強みを生かした体験活動

～世界遺産、瀬戸内海、ものづくり産業の集積、復興の歴史、伝統文化など～

【ベース・カリキュラム】

国際バカロレア
導入検討

教育環境

多様性の創出

～ [生徒] 1/3は外国人・[教職員] 全世界公募～
(多国籍～アジア中心)

全寮制

～ 国境を越えた友情と
強い絆の形成～

自然豊かな学習環境

～ 健全で逞しい心と体の育成～

“広島に対する深い愛着”とともに、世界の舞台で通用する“高度な資質・能力(論理的思考・表現力, 課題発見・解決力など)”を育成

<目指す進学先(通過点)>

～国際機関等に人材を多く輩出している大学(院)など～

[例]

Columbia University Harvard University
Georgetown University University of Oxford
London School of Economics and Political Science etc...

<将来の活躍ステージ>

～世界を舞台に活躍し、社会の持続的な発展に貢献～

- ◆ 国際機関の職員, 国際NGOの職員, 社会的起業家,
新たな価値を創造するビジネスリーダーなど
- [国際機関の例] UNICEF(国連児童基金), OECD(経済協力開発機構),
UNESCO(国連教育科学文化機関), WB(世界銀行) etc...

<波及効果>

～イノベーションを生み出す環境創出～

- ✓ 国際平和拠点としての広島ブランドの向上
- ✓ 国内外の優秀な人材の集積・定着
- ✓ 国際機関や大学等の誘致に向けた環境作り

広島県が目指す「学びの変革」のモデルとして、グローバルリーダー育成校（仮称）が担う「4つの役割」

I. 多様性の確保

～アジアを中心に様々な国から生徒を受入～

III. コンピテンシーベースの教育モデルの構築

～国際機関等で活躍するために必要な力を育む, 実践的なプロジェクト学習を展開～

II. 格差の改善

～家庭の経済状況に関わらず, 高い志を持つ生徒のチャンスを拡大～

IV. 県全体への波及

～先導的な取組のノウハウを国公私を越えて共有し, 県全体の教育水準を向上～

ご説明 アウトライン

0 広島版「学びの変革」アクション・プランについて

1 広島創生イノベーションスクール 概要

2 グローバルスクール（P4Y） 概要

3 ご支援・連携について

- 平成24年度～26年度に、福島大学、OECD、文部科学省が連携して、東北地方で実施。
- 東日本大震災の被災地から中高生84名が集まり「平成26年8月にパリで、東北の魅力を世界にアピールするイベントをつくること」をミッションとするプロジェクト学習に取り組む。
- イベントの内容は生徒自身が企画。「そのために何が必要か」「いつまでに何をすべきか」などについても、様々な大人たちの力を借りながら、生徒自身が計画・管理。
- イベント開催に必要な資金についても、生徒自らが活動内容を企業の方々にプレゼンして支援をお願いし、調達。
- 最終的に、パリのイベントには、世界中から約15万人が来場。

↓代表生徒がOECDの国際会議に参加し、発表
(平成26年5月パリ)



↑パリでのイベントの様子
(バルーンの高さで津波の高さを表現)



↑パリでのイベントの様子
(東北の魅力をフランスの子供たちに伝える)



←パリでの
イベントの様子
(フィナーレ)

◆ディスカッション・地域でのフィールドワーク・インタビュー

「自分たちは故郷の何に向き合い、故郷のために何ができ、そして何をパリで発信したいのか？」



◆課題の発見

「原発事故による風評被害のため、地域の果物が売れない」

◆解決策の創造

「果物をゼリーにすれば、抵抗感少なく食べてもらえることができるのでは？」

◆地元JAなど、関係者との協議

◆ゼリーの完成(パッケージのデザイン等も生徒が企画)



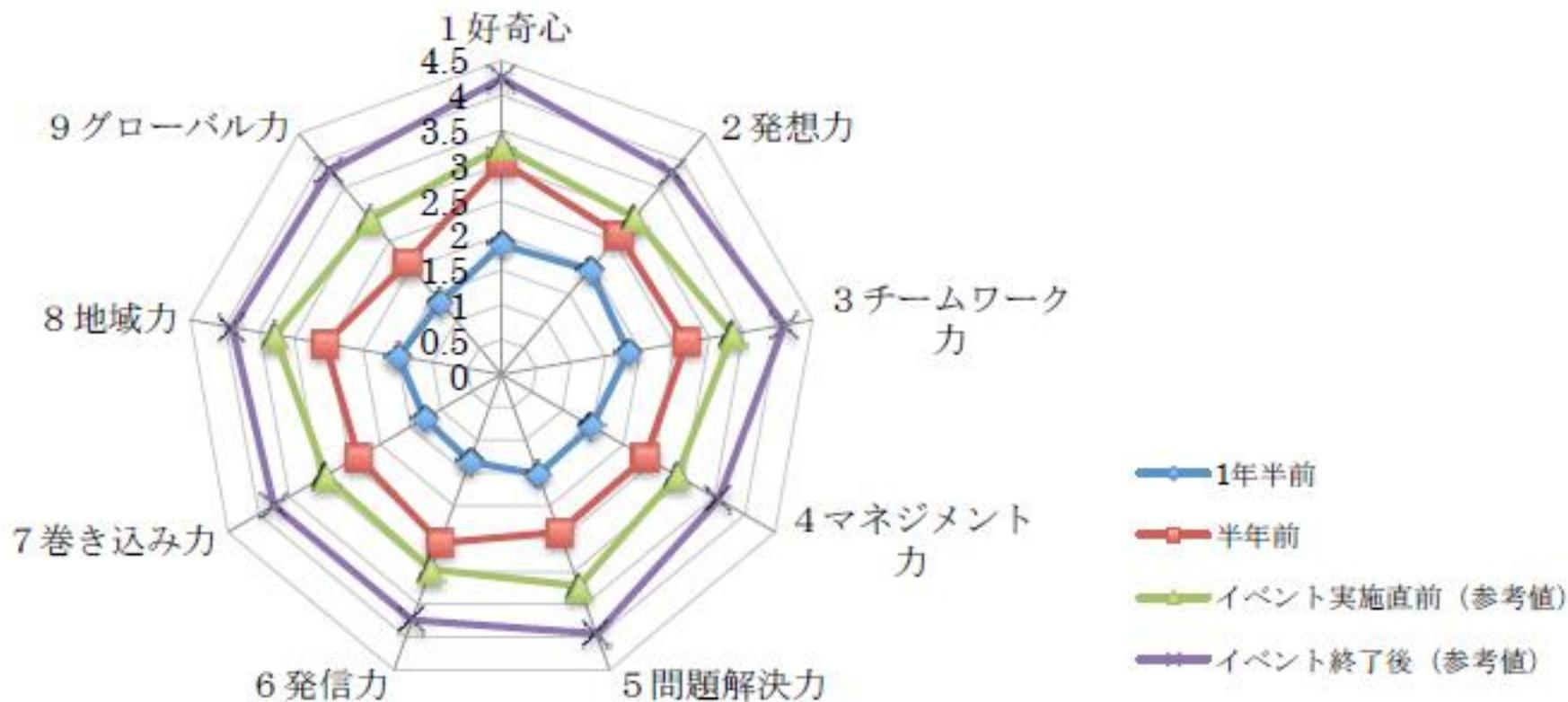
◆風評被害などの経緯とともに、パリで発表



◆地元の方々への配布, 県外での販売



買い物客にゼリーの試食を勧めるメンバー



OECD地方創生イノベーションスクール2030

OECD日本イノベーション教育ネットワーク

◆東京大学に設置（代表：鈴木寛 文部科学大臣補佐官）

- ・プロジェクト全体の統括
- ・各クラスターの実践を基にした調査研究・分析の実施
- ・各クラスターの運営等に係る支援・アドバイス

サポート

OECD

文部科学省

サポート

それぞれのクラスターにおいて、地域の企業・NPO・大学や海外の学校等と連携し、「国際協働型プロジェクト学習」を実施

広島創生
イノベーションスクール

広島クラスター

東北クラスター

福井クラスター

和歌山クラスター

隠岐島前クラスター

高専クラスター

※なお、今後、新たなクラスターが設置される可能性もある

《趣旨》

国公立の枠を超えて集まった県内の高校生たちが、他国の高校生、県内企業・NPO・大学等と協働して、広島に向き合い、広島の魅力と課題を発見し、広島の力を世界に発信する「プロジェクト学習」に取り組む。これを通じ、

- ① **新しい地域・国・世界を創るイノベーターの育成**
- ② 主体的・協働的・探究的な学びを実現する新たな教育プログラムの開発
- ③ 高校生の力により地域課題を解決する地方創生モデルの創出を目指す。

《実施期間》

平成27年度～29年度の3年間

《参加生徒》

県内高等学校（13校）に在籍する高校生 87人

海外パートナースクール生徒 約80人

（フィリピン（セブ）、アメリカ（ハワイ州、ニューヨーク州）、インドネシア、ニュージーランド）

資質・能力	定義
1 創造性とイノベーション	新たな価値を生み出すことができる人の知識に対する考え方
2 地域・広島・日本・世界	世の中の諸問題について理解し、取り組むべき課題を設定する力
3 コラボレーション	目標を共有し、その達成に向けて他者と協働する力
4 プロトタイピングとリファイン	自分の意見や考えを見える化し改善する力
5 リフレクション	自らの成長のために、学びや体験を振り返り、次に生かす力
6 自己管理能力	目標の達成に向けて自律的に行動する力
7 レジリエンス	困難や失敗に直面してもあきらめず、前に進む力
8 オープンマインド	多様な価値観があることを理解し、よりよい人間関係を構築する力

活動	日時
全体 スクール	3か月に1回程度 (2泊3日程度)
エリア スクール	1か月に1回程度
グローバル スクール	平成28年 7月28日～8月4日
グローバル スクール	平成29年7月 (1週間程度)

学校・地域を越え、
高校生の絆を築きます

第一線で活躍している方々
から指導を受けます

仲間と一緒に、地域課題の
解決を目指します

ハワイを訪れ、海外の生徒と
「持続可能な社会の姿」を描きます

海外の生徒を広島に招き、
協働してイベント等を開催します

全体スケジュール及び参加生徒

平成27年度

平成28年度

平成29年度

全体
スクール

★
【第1回】 7/30-8/1 @江田島市
★
【第2回】 12/26-27 @広島市
★
【第3回】 3/24-26 @江田島市
★
【第4回】 4/30-5/1 @江田島市

3か月に1回程度開催
(原則, 長期休業期間中)

★
【最終回】
東京での最終会議
(8月)

エリア
スクール

1か月に1回程度開催
(原則, 土日祝日)



グローバル
スクール

★
7/28-8/4
@ハワイ

グローバル
スクール

★
7月
@広島



参加生徒

高2生

高1生

高3生

高2生

高1生

→ (活動終了)

高3生

高2生

→ (活動終了)

→ (活動終了)

※参加高3・高2生が新たに高1生を勧誘

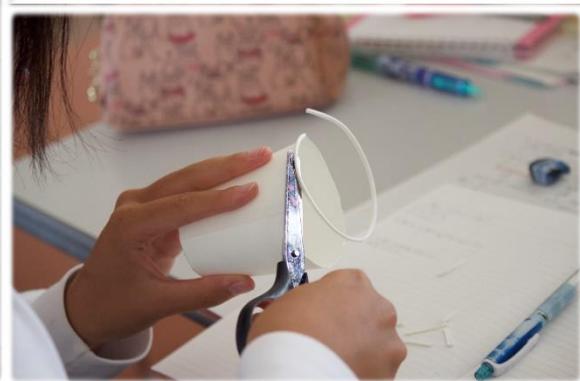
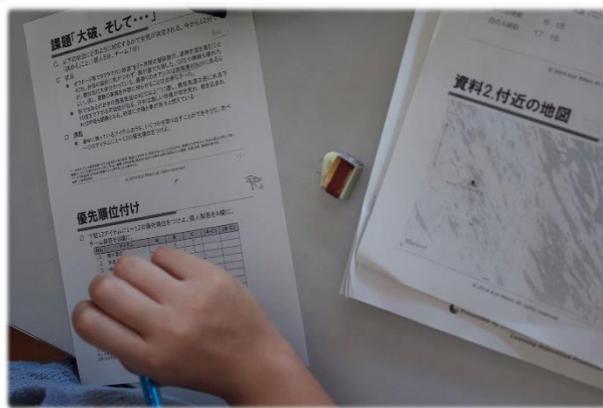
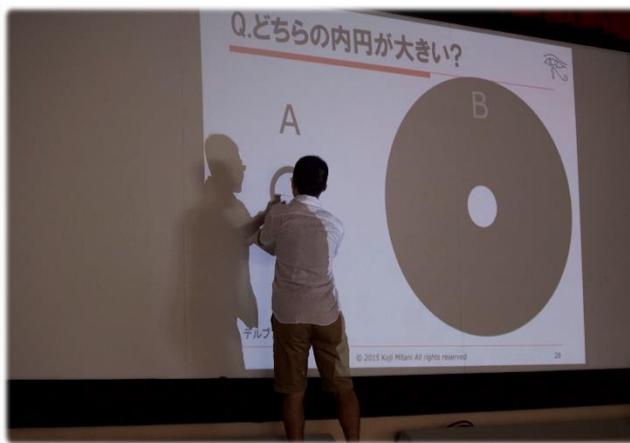
≪第1回全体スクール≫ 平成27年7月30日～8月1日（2泊3日）

テーマ	講師
「決める力」 「発想力～カタチ編」	三谷宏治 金沢工業大学虎ノ門大学院 主任教授
「哲学対話」	河野哲也 立教大学文学部 教授
「地域を知る, 地域と関わる」	平尾順平 NPO法人ひろしまジン大学 代表理事
「直観力・決断力・大局観」	羽生善治 棋士・名人
「協働する力」 「見るようになった, 見なくなった」	県教育委員会指導主事

「第2回全体スクール」 平成27年12月26日～27日（1泊2日）

テーマ	講師
「大切な人を幸せにする方法」	熊平美香 一般財団法人クマヒラセセキュリティ財団 代表理事
「皆さんに身に付けてもらいたい資質・能力」	加藤理啓 Classi株式会社 代表取締役副社長
「知識をつなぎ知識を創りだすコラボレーション」	益川弘如 静岡大学大学院教育学領域 准教授
「課題解決に必要なスキル」	山崎亮 株式会社studio-L 代表取締役

◆K.I.T (金沢工業大学) 虎ノ門大学院 三谷宏治主任教授によるワークショップ



◆K.I.T (金沢工業大学) 虎ノ門大学院 三谷宏治主任教授によるワークショップ

- 「サバイバルゲーム」を活用した、「決める力」「重要思考」に関するワークショップ。
 - ・ 砂漠の中で車が大破したと仮定。動かなくなった車にある荷物（寝袋、コンパス、鏡、食糧など）のうち、どの荷物を持参するか、優先順位を決める。
 - ・ 遭難場所の地理的条件、気候条件などを詳細に記載した資料を生徒たちに配布し、それを見ながら優先順位についてチームで議論。
(→ 多くのチームで、多数決により優先順位が決められていく)
⇒ 現状を分析した上での大きな戦略（「その場にとどまるのか or 移動するのか。移動するとしたら、どこに向かうのか」など）なくして議論し、多数決で決めたのでは、ストーリーがバラバラになってしまうことに気付く。
(「意思決定の仕方」を学ぶ)
- 議論の際、各チームに、ファシリテーター・書記・タイムキーパーを置くこととし、**「議論の仕方」を学ぶ。**
- 紙コップを素材に、「何故このような形になっているのか」を考えるワークショップ。
⇒ 実際にコップを切ってみたり、水を入れてみたりすることにより、**「物事には必ず理由があること」や「対照実験の重要性」を学ぶ。**

◆立教大学文学部 河野哲也教授によるワークショップ

- 「哲学対話」に関するワークショップを開催。
 - ・ 早稲田大学，立教大学などの大学生等，約10名が各チームのファシリテーターとして参加。
 - ・ 「広島創生とは何か？」「なぜ広島創生をしなくてはならないのか？」「広島創生は自分たちにとってどのような意味を持つのか？」「自分たちの活動のゴールは何か？」「自分たちは広島創生のために何が出来るのか？」などを，丸一日かけて徹底的に議論。

【活動当初の県内高校生からの発言例】

- ・ 「広島が好きで，広島のために活動したい」
- ・ 「広島創生は大切だが，広島を東京のようにはしたくない」

【それに対する東京の大学生たちの発言例】

- ・ 「広島が好きなのに，なぜ東京の大学に行きたいのか？」
- ・ 「東京に住んだこともないのに，なぜ東京のようにはしたくないと言えるのか？」
- ・ 「広島より島根や鳥取の方が苦しい状況なのに，なぜ広島を創生するのか？」
- ・ 「15年間広島に住んでいて広島を好きになったのなら，同じように15年間東京に住めば，東京も好きになるのではないか？」

【活動終了時の高校生たちの発言例】

- ・ 「広島には家族もみんな居て，居心地がよい。でも，だから，そんな居心地のよいところに居て，甘えていてよいのか，不安になる」
- ・ 「自分たちは広島のこと好きなので，このまま広島に残りたい。一方で，東京に行って，広い世界の中で成長してみたいという気持ちもある。今回のプロジェクトでは，この「心の中の矛盾」にしっかりと向き合っていきたい」
- ・ 「大学で東京に行ったとしても，自分はいつか必ず広島に帰ってきたい。成長した上で，広島のために尽くしたい」

- 他の生徒と自分との間で価値観の違いがあることを感じるとともに、様々な観点から物事を見ることの大切さを実感した。
- これまでの自分は物事をバラバラに考えていたが、現在は、一見反対のように見える物事でも、共通点があり、解決策を見出すことができるのではないかと考えるようになった。
- これまでの自分は人口減少と聞いても他人事だと考えていた。いまは、現状を知った上で、危機感を持って対策を考える必要があると考えている。そこで、まずは自分は地域のことをもっと知る活動に取り組む。
- これまでの自分は、与えられた役割を頑張ればよいと思っていたが、いまは、他の人の役割も頭に入れて、自分がどのように動けば他の人たちが活動しやすくなるか考えることも重要だと思ふようになった。

- **言われたことは責任を持ってやるが、それ以外のことが自分からできない。**
- **学校での生活の中で、答えは用意されているものという固定観念が刷り込まれている。自分の中で知識を構造的に整理することができていない。**
- **異なる価値観との遭遇という機会が無い。そのような経験が希薄である為、実際にどう対処したら良いのか不安がある。また、人種・民族・宗教などの面で言えば、他の文化への知識や理解が不足している為、良い関係を構築できるとは思えない。**
- **学んだことや体験したことを振り返り、次回に活かせることは何かを考え、徐々に意識できるようになってきた。**
- **自分のやればいいことだけをやるのではなく、他の人ともコミュニケーションをとりながらみんなで、できるだけ全員が気持ちよく、目標達成に近づこうとするのは得意なほうだと思う。でもたまに積極的ではなくなったり与えられた役割から目をそらそうとしそうになったりする。**

(平成28年4月7日現在, メンターの氏名は敬称略)

	エリアチームA (KFS's : カズカ)	エリアチームB (feel)	エリアチームC	エリアチームD (レ点 : レン)
学校 (人数)	広島観音	広島国泰寺	呉三津田	尾道
	市立工業	三次	西条農業	尾道北
	広大附属	安古市	広島	福山明王台
	—	吉田	—	—
NPO メンター	行村聡子 (青年海外協力隊OG)	松原裕樹 (ひろしまNPOセンター)	増田勇希 (ひろしまNPOセンター)	下宮勇生 (S-produce.)
大学生 メンター	小河理沙 (修道大3年)	松島亜耶 (県立大3年) 増井佑夏 (修道大2年)	田中歩 (広島大3年)	平井千裕 (福山市大2年)
社会人 メンター	脇坂信太郎 (NSウエスト株式会社)	梵大英 (専法寺)	木村善行 (広島銀行)	大沼杏実 (Classi株式会社)
事務局 メンター	森田晋也 (県教委学びの革新推進課)	猪野哲也 (県教委学びの革新推進課)	實本有利子 (県教委学びの革新推進課)	笠原美智恵 (県教委学びの革新推進課)

- ・各学校等でのディスカッション
- ・地域で活動している方々，地域の商工会議所・市役所・農家・老人会・認定こども園等の方々との意見交換
- ・観光客，住民等へのインタビュー
- ・地域（観光施設・文化施設等）でのフィールドワーク
- ・中山間地域（三次市布野）において「広島の課題」についてインタビュー
- ・地方創生に関するシンポジウムへの参加
- ・近隣の小学校児童へのアンケート（「夢があるかどうか」）
- ・語り部の方のお話聴講
- ・校内での活動成果発表会・アンケート調査
- ・福島県立ふたば未来学園高校生徒との協働活動
- ・各学校での議論，資料作成（ほぼ毎週）
- ・Web上での情報共有サイト（Classi）を活用した議論（随時）

(平成27年11月17日現在, 五十音順(敬称略))

氏名	役職
大竹 美喜	アフラック(アメリカンファミリー生命保険会社) 創業者
大野 徹	(株)大野石油店 代表取締役
加藤 理啓	Classi株式会社 代表取締役副社長
上別府 隆男	福山市立大学 都市経営学部教授
北村 正次	広島県高等学校PTA連合会 会長
熊平 美香	一般財団法人クマヒラセキュリティ財団 代表理事
隈元 美穂子	国際連合訓練調査研究所(ユニタール)広島事務所 所長
坂越 正樹	広島大学 理事・副学長
玉井 博文	マッスル株式会社 代表取締役社長
坪内 南	一般財団法人教育支援グローバル基金 事務局長
中村 隆行	ひろしまNPOセンター センター長
西本 寮子	県立広島大学 副学長
益川 弘如	静岡大学 学術院教育学領域准教授
三浦 浩之	広島修道大学 人間環境学部長
森信 秀樹	広島経済同友会 代表幹事(森信建設(株) 代表取締役社長)

(平成28年5月6日現在, 敬称略)

- ・ OECD (経済協力開発機構) 【運営等に関するアドバイス】
- ・ OECD日本イノベーション教育ネットワーク【運営等に関するアドバイス】
- ・ 文部科学省【運営等に関するアドバイス】
- ・ 東京大学【運営等に関するアドバイス】
- ・ East-West Center【P4Yプログラムの開発】
- ・ Asia Society【運営等に関するアドバイス】
- ・ ひろしまNPOセンター【エリアスクールの運営, メンターの派遣】
- ・ 広島経済同友会【メンター選定に係る調整支援, 会員への周知等】
- ・ 三次商工会議所【メンター選定に係る調整支援, 会員への周知等】
- ・ 広島青年会議所【会員への周知等】
- ・ NSウエスト株式会社【メンターの派遣】
- ・ 専法寺【メンターの派遣】
- ・ 広島銀行【メンターの派遣】
- ・ 広島大学【メンターの派遣】
- ・ 広島修道大学【メンターの派遣】
- ・ 福山市立大学【メンターの派遣】
- ・ 県立広島大学【メンターの派遣】
- ・ Classi株式会社【メンターの派遣, 学習支援クラウドサービスの提供】
- ・ ソフトバンク株式会社【デバイス (iPad) の無償貸与】
- ・ 日本マイクロソフト株式会社【デバイス (surface) の無償貸与】

※「関係者の運営アドバイザーへの御就任」による御支援を除く。

ご説明 アウトライン

0 広島版「学びの変革」アクション・プランについて

1 広島創生イノベーションスクール 概要

2 グローバルスクール（P4Y） 概要

3 ご支援・連携について

ハワイを訪問し、「Partnership for Youth (P4Y) プログラム」に基づき、海外パートナースクール生徒との協働活動を実施する。

協働活動を通じて、生徒たちに、「グローバルな視野」や「国境を越えたコミュニケーション能力」などを育むとともに、「地球規模の問題の状況」「広島と諸外国の関係」などに関する理解を深めさせ、生徒たちが取り組むプロジェクトの内容改善に繋げる。

《Partnership for Youth (P4Y)》

広島県教育委員会とEast-West Center (EWC) が共同開発したプログラム。

「デザイン思考」の手法を活用しながら、海外生徒とともに、「持続可能な社会の構築に向けた、世界のあるべきビジョン」を描く。

(East-West Center (EWC))

ハワイ州に本部を持つ独立研究機関。1960年に、アメリカ連邦議会の予算により設立。グローバルリーダーの育成に向けた様々な教育プログラムを開発・実施している。

《参加生徒》

広島県の高校生 87人

海外パートナースクール生徒 約80人

(フィリピン (セブ), アメリカ (ハワイ州, ニューヨーク州), インドネシア, ニュージーランド)

≪日程≫

平成28年7月28日～8月4日

≪スケジュール（予定）≫

(7/28) ウェルカムレセプション・アイスブレイキング

(7/29) チームビルディング, ワークショップ

(7/30-8/2) ワークショップ, 海外生徒とのディスカッション,
現地でのフィールドワーク

(8/3) ビジョン発表, 専門家からのフィードバック, フィードバック
を踏まえたブラッシュアップ

(8/4) 修了式

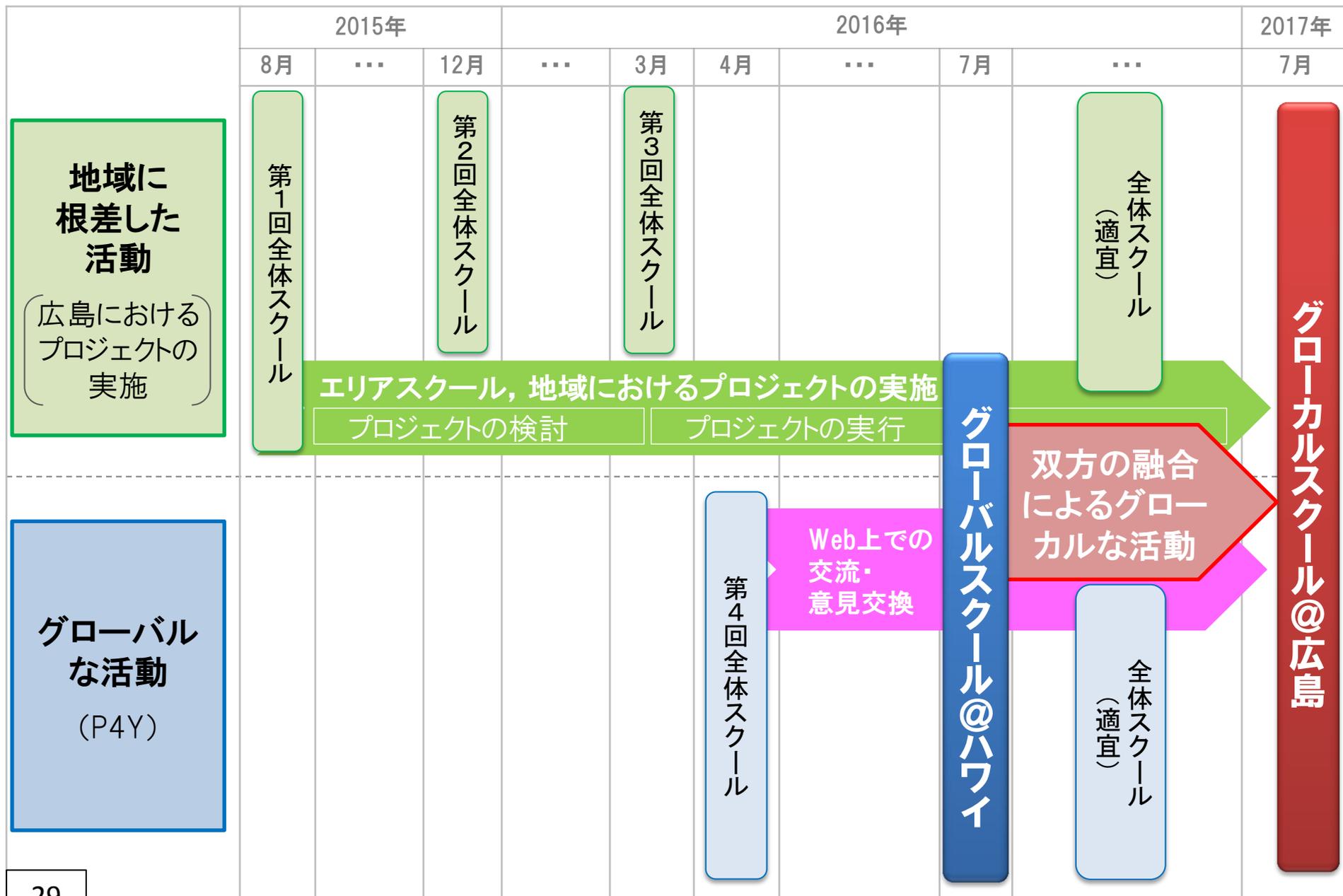
※ 4/30-5/1の「第4回全体スクール」において, East-West Center の Namji Steinemann
ディレクターによるキックオフワークショップを開催。

※ グローバルスクール以外においても, オンライン上での専用プラットフォームを活用し,
来年7月の「グローバルスクール」に向けて, 交流・意見交換を実施。

≪生徒渡航費用≫

25万3,000円

(※プログラムの開発・実施経費については、県教育委員会にて負担)



ご説明 アウトライン

0 広島版「学びの変革」アクション・プランについて

1 広島創生イノベーションスクール 概要

2 グローバルスクール（P4Y） 概要

3 ご支援・連携について

1. 金銭面でのご支援

(1) グローバルスクール@ハワイへの生徒参加費用に対するご支援

→ 参加生徒に均等に配分し、自己負担額の軽減に活用させていただきます。

(2) 各エリアでの活動（プロジェクトの実行）に対するご支援

→ 支援したいエリアをご指定ください。

プロジェクトの実行に係る経費として活用させていただきます。

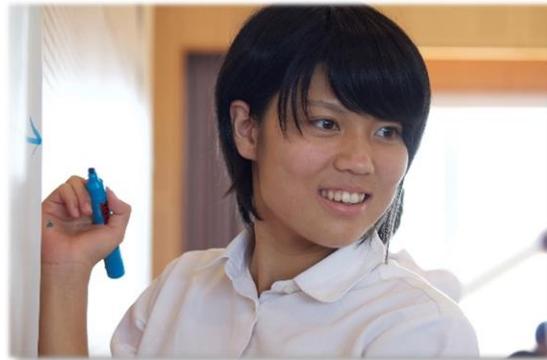
(3) グローカルスクール@広島のカ開催に対するご支援

→ 来年7月に開催するグローカルスクールの開催経費（物品調達費、海外生徒渡航費等）として活用させていただきます。

2. 物品面・技術面・人材面等でのご支援・連携

- 各エリアのプロジェクトの実行について、物品面・技術面・人材面でのサポートをお願いいたします。

- ご寄附の窓口は、「（公益財団法人）コミュニティ未来創造基金ひろしま」（事務局：ひろしまNPOセンター）となります。
- ご寄附は、税制上の優遇措置の対象となります。
また、活用結果については、整理の上、ご報告させていただきます。
- ご寄附いただいた方々には、後日、お礼状及び領収書を送付させていただきます。また、広島県教育委員会HPや各種報告書等において、ご芳名を掲載させていただきます。
- 「**（１）グローバルスクールへの生徒渡航費に対するご支援**」については、生徒負担金額確定の関係上、**今月末（５月３１日（火））までの受付**とさせていただきます。
「**（２）各エリアでの活動（プロジェクトの実行）に対するご支援**」及び「**（３）グローバルスクールの開催に対するご支援**」については、**来年５月末日までの受付**とさせていただきます。



みなさま方からのあたたかいご支援を賜りますようお願い申し上げます。



<本件担当>

広島県教育委員会事務局教育部 学びの変革推進課
(課長：寺田, 担当：林, 加藤, 猪野)

電話： 082-513-4969

mail： kyohenkaku@pref.hiroshima.lg.jp